建設経済常任委員会行政視察研修報告書

建設経済常任委員会では、平成 30 年 5 月 14 日～16 日の 3 日間、静岡県菊川(きくがわ)市、滋賀県長浜市、京都府宇治市にて視察をして参りました。

参加者は、若見孝信副委員長、矢澤功委員、小菅哲男委員及び事務局職員 1 名そして私、岡村浩雅であります。

初日視察先の静岡県菊川市では「農学芸スクール事業」について、2 日目訪問した滋賀県長浜市では「黒壁スクエアによるまちづくり」について、3 日目訪問した京都府宇治市では「宇治市観光振興計画」について研修を実施しました。

静岡県菊川市

〇農学芸スクール事業について

5 月 14 日は静岡県菊川市を訪問しました。

菊川市は、静岡県の西部に位置する市であり、遠州と信州を結ぶ「塩の道」など、古くから南北交通の要所として栄えたまちです。「深蒸し茶」の発祥の地でもあり、平成の大合併により小笠町と菊川町が合併し、現在の菊川市が誕生しました。

菊川市の基幹産業は農業ですが、近年特産のお茶などを中心に価格低迷状態から脱することができず、地域経済の縮小が続いています。このような中で、生まれ育ったまちで自ら課題を持ち、自ら新たな解決手法を生み出し、自ら地域産業を興すことができる「次世代イノベーター」を育成するために、農学芸スクール事業を開始するに至りました。

この事業は、市内児童・生徒から希望者を募り、拠点農地を中心とした農業体験、加工や流通を含めた各種学習プログラム、販売体験を実施する通常企画と、主に首都圏在住の児童・生徒親子を対象に、宿泊を伴う農業体験スクールを実施する長期休暇企画の 2 本立てで行っています。

特に通常企画では、例年15名前後の部員が畑づくり、苗の植え付け、畑の草取り、収穫を一貫して行い、3種類のハーブを栽培しています。そのハーブを商品化するために、販売ターゲットや商品コンセプトを考え、パッケージ制作まで部員が中心となって行っています。出来上がった商品は市内スーパーや県内催事での販売、平成29年度においては東京まで商談に行き、東京有楽町交通会館での販売も行いました。（年間売り上げ：平成28年度　63万円、平成29年度165万円）各年度末には事業報告会も実施し、来場者からは子どもたちの成長を実感する声が多く挙がったとの報告がなされています。

事業の効果としては、新聞、テレビ、雑誌等のメディアに多く取り上げられたので大きな効果があったとの事です。また人材育成の観点からは、アンケート結果からは「もっと深く学んでみたいことがある」「人前でも緊張せずに自己紹介できる」「将来の目標をもっている」などの項目で数値が伸びており、部員の成長が見られたとの事です。

今回の視察の所管課は菊川市企画財政部企画政策課であり地方創生の事業でありましたが、地域のイメージアップといった地方創生の観点からすると一定の効果がある事業といえると思います。しかし、我々建設経済常任委員会の所管である農業の視点からは、内閣府地域再生計画でこの菊川市の事業が先導的であると認められる理由として挙げられていた「農業の担い手確保」「耕作放棄地化の未然防止」といった内容の踏み込んだ説明が欲しかったところです。

この農学芸スクール事業は、地方創生的観点、農業的観点、人材育成的観点、教育的観点を含む総合的効果をもたらす事業と考えられます。さくら市でも生涯学習課で「農業体験」を実施していますが、それをもっとバージョンアップするなどの推進が今後必要になってくると思われます。

滋賀県長浜市

○ 黒壁スクエアによるまちづくり

5月15日は滋賀県長浜市を訪問しました。

長浜市は県の北東部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接しています。北國街道や北國脇往還、戦国時代を偲ばせる長浜城や小谷城跡、姉川古戦場など優れた歴史遺産もあります。1市8町が合併して現在の長浜市となりました。

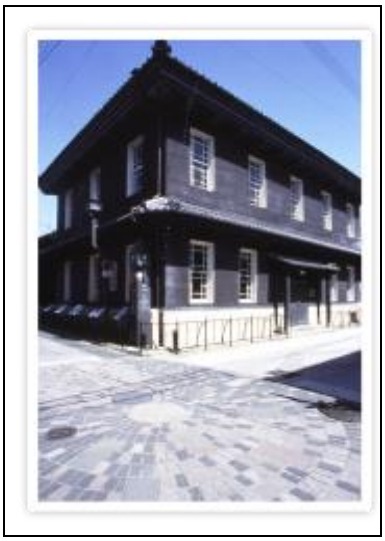
歴史情緒あふれるまちですが、昭和 50 年代からのロードサイド型店舗の出店、車社会の進展による市街地の郊外への拡散化、産業界全般の低調などの理由により中心市街地商店街は衰退し、一時は商店街の1時間当たりの通行量が4人と犬1匹まで落ち込みました。その後、長浜城の再築、博物館都市構想の策定、歴史的建造物の保存問題がきっかけとなり、黒壁スクエアを開始しました。この事業は、歴史性・文化芸術性・国際性の3つのコンセプトを有し、大型店では真似のできないこと、地域の産業を圧迫しないこと、上記の3つのコンセプトを充たすものとしてガラスを通じた店舗展開を行っています。

黒壁銀行（旧国立第百三十銀行長浜支店）の保存問題がきっかけで設立された第3セクターの（株）黒壁の活動が今日の賑わいにつながっています。現在黒壁スクエアは直営館とグループ館合わせて約30館で中心市街地活性化とガラス文化の進化に貢献しています。

他、黒壁スクエア以外の空き店舗解消策として市は単独補助制度を設け、空き店舗の解消、街並み景観の維持、回遊性の向上を図っています。また、「にぎわいの街づくり事業」としてのイベントへの補助や「美しい観光地づくり推進事業」として歴史・自然・芸術等の要素を加味した新たな景観・環境を創出する事業への補助も行っています。

その結果、空き店舗は平成元年の65店舗から現在20店舗にまで減少するに至っています。また、観光客は年間約200万人が訪れ、平成元年からの累積での経済効果は5300億円に至るまでの実績を上げるまでになりました。

我々も市役所での説明のあと実際現地にて黒壁スクエアの説明を受けました。視察に行ったのは平日の日中であったが、観光客も多く賑わっている様子がうかがえました。



黒壁スクエアによるまちづくり事業は、ストーリー性があり発展する様子がわかりやすく大変参考になる事業でありました。しかし、中心市街地活性化を図り努力している自治体は数多くあります。その中で長浜市のように成功している事例はあまり多くないように思えます。そういった部分を精査し、さくら市に置き替えた場合どうするか考え、今後の中心市街地活性化事業の参考にしたいと思います。

京都府宇治市

〇宇治市観光振興計画について

5 月 16 日は京都府宇治市を訪問しました。

京都と奈良の中間に位置し、中央部には宇治川が流れ、東部には山々が連なっています。宇治市は有名な「平等院鳳凰堂」を有する市です。市域には多くの遺跡や文化財が点在し、平安貴族たちの別業の地として古くから京都と密接な関係にありました。高級茶である宇治茶の生産地としても有名であります。

宇治市では、平成 13 年度に、10 年間で観光入込客数を 400 万人から 500 万人に増加させることを目標に「宇治市観光基本計画」を策定し、源氏物語ミュージアムのリニューアル等の様々な事業を展開し、源氏物語千年紀にあたる平成 20 年には、556 万人の観光客を迎え、当初の目標は達成してきました。

以降、平成 23 年の東日本大震災等の影響 の他、宇治市の主要観光地や宇治川の改修工事、台風災害の影響のため一時的な減少が見られましたが、主要観光地の改修工事の完了や外国人観光客の増加により、平成 27 年には過去最高の 559.8 万人、平成 28 年には 558.7 万人となっています。

現在、観光振興計画策定後 5 年が経過しましたが、来客数は増えているが満足度は下がっているとの結果が出ているとのことです。これは、平等院鳳凰堂が混みすぎている、観光地が多いにもかかわらず、駐車場が少ないなどの問題があるようです。

他、インバウンドへの取り組みも質問しましたが、外国人の割合は約 3 割、市営の茶室「対鳳庵」に限っては 4 割にもなるそうです。説明をしてくれた課長からは、さくら市以前に、栃木県はインバウンドへの取り組みが弱いのではないかとの指摘を受けました。外国人が喜ぶのは「富士山・桜・温泉」だそうです。このうち 2 つが当てはまる、わがさくら市は期待大と感じました。

さくら市においては5月20日に待望の「駅前交流拠点（さくらテラス)」が完成しました。この施設開設によってより観光地へのムードを盛り上げ、駅前でお土産を買うことができ、また来たいと思ってもらえるようなさくら市にしていきたいと思います。

インバウンドに関連して、平成29年は約2870万人の外国人が来日しています。外国人が「東京、大阪、京都」といった主要観光地を訪問するのを「ゴールデンルート」と呼びますが、それをまざまざと感じる視察でありました。新幹線車内は外国人観光客で埋め尽くされ、京都の街中も外国人観光客でごった返していました。こういった外国人を取り込んでいくためにも、今回の視察研修を活かし、よりよい市政発展につなげていけるよう、今後とも努力していきたいと思います。以上、報告と致します。